

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日 平成 21年10月6日

【評価実施概要】

事業所番号	4071901179		
法人名	社会福祉法人 大浦福祉会		
事業所名	グループホーム 愛の里 白寿荘		
所在地 (電話番号)	〒826-0043 福岡県田川市大字奈良1534番地31 (電話) 0947-45-2513		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年9月28日	評価確定日	平成21年10月10日

【情報提供票より】(平成 21 年 7 月 31 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 11人、兼務 6人、非常勤 0 人、常勤換算10.8	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築5年目
建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 10,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 150,000 円	有りの場合 償却の有無	有(期間:2年間)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成 21 年 7 月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	9 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 86,6 歳	最低 74 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・藤下医院	・社会保険 田川病院	・山本歯科医院
---------	-------	------------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

工業団地を過ぎ、池を見ながら進んだ先の自然豊かな、なだらかな丘陵地帯に、グループホーム 愛の里白寿荘がある。広大な敷地の中にふれあい広場を囲むように、保育所、デイサービスセンター、古民家調の匠の里がある。季節の変化を肌で感じられる多くの樹が植えられ、思わず「ただいま」と開けたくなる家庭的な玄関を入ると、大きな窓越しに保育園児の元気な姿が飛び込んでくる。人に優しく身体への負担が少ない木目の美しい素材で造られた広い廊下をはじめ、利用者が穏やかで自然体で生活できるような配慮が隅々までなされている。ホームは全面ガラス張りの窓を通し、自然の光がふりそそぎ明るい。年を重ね身体が思うように動かなくなっても、人とふれあい優しさで温もりを感じながら、居心地よく生活できる理想郷をという施設長の想いを職員が理解し、利用者が「ここに来てよかったね。ここに来たら元気になったね」と思えるように、利用者の気持ちを大切に寄り添い支援している。地域とのふれあひも大切に、どこか懐かしく優しく温かいホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題として「思いや意向の把握」「チームでつくる利用者本位の介護計画」「現状に即した介護計画の見直し」「プライバシーの確保の徹底」があげられていた。日頃の活動内容、記録類の見直しなど再度振り返りをする機会ととらえ取り組み、改善されていると判断し、今回の自己評価票作成につなげた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価票は、職員の意見、家族面会時の様子や意見を記録した連絡簿などを参考にし、利用者に関わる全ての意見をもとに話し合い、管理者が取りまとめ作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	2ヶ月に一度、利用者代表、家族代表、地域住民代表、市職員をメンバーに開催し、ホームの現状、活動内容、今後の取り組み等を報告すると共に、メンバーとの意見交換を積極的に行っている。利用者や家族からの発言もあり、意向を把握できる場にもなっている。運営推進会議の内容は、詳細に議事録に記載し、全職員が共有している。今後は、足湯や囲炉裏などの設備を活用した開催など活性化に繋がる事を期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	月に一度、利用者の近況を写真に収めてグループホーム便りを作成し、家族に郵送している。家族の面会時は、利用者の様子を伝えると共に、ホームへの意見や要望も積極的に聴き、意向の把握に努めると共に何でも言ってもらえる雰囲気作りにも配慮している。家族の意見や情報は連絡簿に記載し全員が情報を共有し、ミーティングでも取り上げ介護計画に繋げるなど、サービスに反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	保育所、デイサービスセンター、匠の里が併設したホームであり、日常的に施設を利用する人々とふれあう機会が多い。菜園での収穫や保育所の運動会など、保育園児や園児の家族との交流も多い。地区の草刈に参加したり、行事に参加したり、積極的な交流と連携をはかっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの利用者が、自然体で「あたりまえ」の生活が出来、利用者から「ここに来て良かったね。ここに来たら元気になったね」との声が聞かれるように、地域とふれあいながらその人らしく生活できることを明確に表した理念である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を訪問者の目に触れる玄関に掲示し、職員は、利用者と共にお互いに協力しながら和やかに自然体で接し、言葉かけや態度など理念が反映された取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が、地域で孤立しないよう子供から年長者までが集える施設の造りから、普段の生活の中で地域の人々とふれあう機会も多い。また、積極的に地域の草取りに参加したり、地域の老人会の世話係の方々との交流などに努めている。保育園児とのお泊り、菜園でのふれ合いなど地域の人々と共に暮らす生活がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で課題とされた項目について、活動内容や記録類の見直しなど実施し、日頃の取り組みの振り返りをしている。自己評価票作成に関しては、職員の意見、家族面会時の記録なども参考に話しあい管理者がまとめている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、利用者、家族、地域住民代表、市職員をメンバーに開催している。ホームの現状や活動内容や今後の取り組みを報告すると共に、メンバーの意見を積極的に聴いている。家族が市の職員に相談したり、メンバー間の意見交換の場にもなり双方向的な会議になっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と常に訪問や電話で連絡を取り合い、サービスの向上に努めている。定期的なケースワーカーの来訪時には情報交換を積極的に行いサービスに繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員は、資料をもとに勉強会を開き、職員全員への周知や理解を深めている。利用者の入居時には利用者、家族に説明し必要な支援ができるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、利用者全員の近況を写真におさめたホーム便りを送っている。家族の訪問時は、積極的に利用者の状況を伝えている。年二回の利用者の外泊時には、利用者一人ひとりの様子が一目でわかるよう工夫された手作りのアルバムを手渡している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の代表が参加し、ホームの職員のみでなく市の職員との意見交換もしている。家族の意見や情報は連絡簿を作り職員全員が情報を共有し、介護計画やサービスに反映させている。家族の来訪時は、何でも言える雰囲気づくりにつとめ、意見を聴いている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム開設時から今まで、一名の異動のみで、馴染みの関係が出来利用者へのダメージは少ない。また、デイサービスセンターの職員とも、日頃から交流があり、馴染みの関係が築かれているのもダメージを防ぐ意味では心強い。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用に関して、性別、年齢などの制限は設けていない。高齢者が好きで人柄を優先して採用している。職員が生き生きと能力を発揮できるよう、施設長が和やかな雰囲気でも話を聴いたり、アドバイスをしたり働きやすい環境が整えられている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	人権教育に関する外部研修に参加し、参加した職員は伝達研修をし、職員全員が知識の共有を図っている。職員は言葉遣い、態度など利用者の人権を尊重した対応をしている。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、施設内研修と学ぶ機会が多い。外部研修参加者は伝達研修をし、全員が知識の共有が出来るようにしている。また、資格取得には、勤務ローテーションを考慮するなど全面的な支援をしている。子育て中の職員は、隣接した保育所に子供を通わせながら学ぶことが出来恵まれた環境にある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、勉強会や情報交換などの交流をしている。訪問看護師や他の施設のケアマネージャーとも機会をとらえて話し合いをし、サービスの質の向上につなげている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族が納得し安心して入居を決められるように、家族の見学、利用者と一緒にホームでお茶を楽しみ、宿泊体験をするなど丁寧に順を踏んで入居に至るように支援している。その間常に状況に応じた助言や説明をし、必要に応じて併設の職員やケアマネージャーとも連携をはかり対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は「一つ屋根の下同じ家族として、自然体でお互い協力しながら、出会いを大切に一緒に前進できるよう」と理念に掲げそれを実践している。保育所に通う職員の子供等を人生経験豊かな利用者が、優しく教え見守るといふほほましい光景も見られ、お互い支えあう関係が自然に築かれている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々の関わりの中で利用者の言葉や表情の変化を見逃すことなく、思いや意向を把握するよう努めている。思いが表出しやすい声かけや、自己決定しやすい働きかけをしている。特にコミュニケーションが困難な利用者が孤立しないよう配慮している。職員の異動がなく、馴染みの関係が築かれていることも思いや意向の把握を容易にしている。		
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問時や運営推進会議などの会議時に得た家族の意向や情報、日々の関わりの中で把握した気付きなど、利用者に関する全ての人の情報が、反映されるよう話し合いをし計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しをし、利用者に変化が見られたときは、家族に相談し、その都度モニタリングをし、現状に即した計画になるよう変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスセンター、古民家調の匠の里、保育所があり、日常的に子供たちとのふれあいや、四季の変化を眺めながらの大浴場での入浴、足湯、電での調理などの楽しみごとや、わくわく体験がホームに居ながら出来る環境と、馴染みの理・美容院への送迎、かかりつけ医への受診支援など利用者の意向や要望に対応できる設備と取り組みがなされている。		
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望に応じて、かかりつけ医で継続的な医療が受けられるよう受診支援している。併設施設の看護師や医療連携で契約している訪問看護師への健康面の相談もしており、状態の変化時はすばやく対応できる体制がとられている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族に日頃から、ホームで出来ることや、設備や医療体制の整った医療機関での支援が望ましいことの見極めをし、医療機関の利用が必要になった場合についての説明をしている。看取りの指針も作成し、家族の署名、捺印を貰っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないよう、職員は声かけや口調にも配慮して接すると共に、思いや希望が表せるよう、自己決定を待ち優しく寄り添っている。記録類等個人情報の取り扱いにも細心の注意を払っている。一人ひとりの居室の横にトイレを設けるなど、羞恥心への配慮もきめ細くなされている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活習慣やペースを把握し、食事をはじめ日常生活動作など、一人ひとりのペースにあわせて対応している。一つ屋根の下で生活していく上で、調整が必要なことについては、理解してもらえらるまで話し合いをし、納得の上で協力してもらうこともある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の楽しみに重点を置いて支援しているホームは、利用者が楽しみながら、満足のいく食事が出来るよう様々な取り組みをしている。保育園児と一緒に菜園で育てた食材を使ったり、中庭でパーベキューをしたり、電でご飯を炊いたり、わくわく体験を食事にも取り入れている。メニューにも利用者の好みを聴き取り入れている		
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおまかな日程は決めているが、利用者の体調や希望を優先し対応している。ホームでの入浴のみでなく、景色を見ながら温泉気分を味わいたい利用者には、デイサービスセンターの大浴場での入浴もできるなど、入浴が楽しいものになるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々わくわくする体験をしながら、笑って楽しく生活できるテーマパークをとの想いから造られたホームは、日常生活の中で楽しみごと、気晴らしが出来る場面が多くある。保育園児が利用者が優しく見守り、豊かな経験を伝えたりと自然体で持てる力が活かせるようになっている。足湯に浸りながらのコミュニケーションも利用者の楽しみになっている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広大な敷地のなかに、他の施設と併設されたホームであり、季節を肌で感じられるよう四季それぞれに花や緑や紅葉が楽しめるように多くの樹が植えられていて、日常的に戸外での生活を楽しむことができる。利用者の心身の状態や、希望に沿って買い物、ドライブ、花見などの支援もしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の自由な暮らしを制限することがないよう、玄関には鍵をかけていない。職員は利用者の外出の気配を感じても、無理に止めずさり気なく見守り、気持ちに沿いながら安全を確保している。保育所、デイサービスセンター、匠の里から見渡せる位置に、グループホームがあるという環境も、制限することなく安全面が確保できる点で心強い。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回夜間を想定した避難訓練を実施している。平屋造り、広い中庭、周囲に同一法人の施設があるという環境に加え、緊急時に近隣の協力が得られることも心強い。職員の中に救命救急の指導者もいて、緊急時には全職員が対応出来るようにしている。非常災害時に備え毛布などの備蓄はしているが、食品の備蓄はしていない。		広い敷地内に、関連施設があり災害時には食料などお互い助け合える環境であるが、想定外の事態が起きたときにも、対応できるように非常食や飲料水の備蓄が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを参考に、栄養バランスに配慮した献立を同一法人の栄養士が作成している。食事摂取量、水分摂取量を記録し情報を共有している。時には電でご飯を炊いたり、庭でバーベキューをしたり、楽しみながら必要量が摂取できるような配慮や工夫がいたるところで行なわれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の温もりを大切にしたホームは、天井が高く明るく、どこも掃除が行き届いている。利用者が思い思いの時間を過ごせるよう、いたるところにテーブルや椅子が置かれ、ふれあい広場で遊ぶ保育園児の様子を見ながら日向ぼっこを楽しむこともできる。居間の壁には季節感を取り入れた飾り付けや、楽しそうな写真が飾られ居心地よく過ごせる工夫がされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品が飾られた部屋は、畳敷き又はベッドの選択も含め利用者が居心地よく過ごせるように配慮されている。ナースコールの設置や、冷暖房完備など快適で安全な生活を過ごすことができる。		